

平成6年度事業報告書

I. 事業の状況

1994年の企業メセナの実態をみますと、長引く不況下にあってもメセナを行なうべく努力している企業の多いことが窺えます。当協議会の調査によると、回答企業の総資金援助額は93年に引き続き減少傾向にはあるものの、7割強の企業は資金援助額や支援件数を前年並みか前年より増やしています。また、経常利益は赤字でもメセナを継続している企業やメセナ費の予算化をしている企業も増加しています。さらに、企業内でメセナを推進する上で障害となっていた事項も徐々に少なくなっていることも明らかになっています。このような調査結果をみますと、94年の企業メセナは深刻な経営環境にもかかわらず、企業内に根をおろしつつあると考えられます。

一方、94年度には地方にいくつかの新しい動きをみることが出来ます。地方自治体は相変わらず文化施設を建設していますが、その運営管理や地域の文化振興に企業の協力を求めようとする動きがみられ、それに呼応するかのようになり、各地でメセナ組織設立の動きが民間独自で、或いは官民共同で見られたのも94年の特徴といえます。すでに社団法人となっている「企業メセナ群馬」について、佐賀、山口、愛媛に相次いで組織が発足し、名古屋、石川、長野、北海道、などにも設立の動きが起こっています。

また、メセナに関する優遇税制実現の第一歩である当協議会の特定公益増進法人化による助成事業は企業と芸術団体をより密接に結びつける制度として双方から大きな期待を受けてスタートしたと考えます。

このような状況の中で、1994年度の当協議会の事業活動は次の4点を中心に展開いたしました。

①企業、芸術団体に対する啓発活動の充実

メセナに関する優遇税制を獲得したことにより、企業メセナを拡大する環境が改善されたのを受けて、企業からの支援を得るために効果的な芸術団体側のノウハウを研究するワークショップを開講しました。これは、芸術団体と企業の担当者が同じテーブルで「企画書の書き方と説明のしかた」を討議するという画期的なものでした。また、企業を対象に「アートを学ぶ」シリーズをより掘り下げた「舞踊講座」「美術講座」を各10回開催し、芸術への理解を深める講座の開催など、啓発活動の充実を図りました。

②助成事業の定着

この事業は企業と芸術団体双方を結びつけ、芸術団体への助成活動を活発化させるものですが、認定申請の傾向や認定結果をみると、地方公共団体が企画する活動への企業からの支援を獲得するのに効果的であり、支援企業も全国に広がりつつあると云えます。また、年間6回の認定審査と支援金の迅速な処理などを柱とするこの事業のシステムは、既成の助成機関の制度では対応できない部分にも対処できるというメリットをもち、芸術団体からは歓迎されています。しかし、マイナーの芸術団体のなかには、認定を受けても企業からの助成を獲得するのが難しく認定の効果が発揮しにくいという面もみられ、この事業が定着するなかで、多方面にこの制度のPRを強化する必要があると考えます。

③地方自治体と企業メセナの関係の実態把握

『メセナ白書1994』で初めて地方自治体と企業メセナに関する実態を明らかにしました。日本型メセナの方向として国、地方自治体、民間の「ゆるやかなパートナーシップ」が考えられることから、この実態をもとに地方メセナと企業メセナの新たな関係の構築を今後の課題とし、95年度計画の中期構想といたしました。

④国際メセナ会議開催準備

設立5周年記念「国際メセナ会議'95」の開催にむけ、会員企業の協力のもとその準備に入りました。

以下、事業並びに収支結果についてご報告致します。

1. 事業報告

各事業の具体的作業は各専門部会、プロジェクトのメンバーのご協力を得て推進致しました。

1.1 会員数状況

会員数は3月31日現在、正会員 171社 463口、準会員41社44口となり、1994年度期首に比べ、正会員2社増となっております。

1.2 事業の実施状況

① 啓発普及事業

企業のメセナ担当者を対象とする「企業メセナを考えるセミナー」は「企業メセナセミナー」と改め、内容も3コースとし充実を図りました。1つは新しくメセナの担当になられた方々への「入門編」で、企業の社会的責任と社会貢献、メセナの重要性等基本的な考え方を理解して頂くものです。講師は電通総研伊藤裕夫氏。2つ目は92年度から実施しております「アートを学ぶ」シリーズです。94年度は国際交流基金と共催で舞踊、美術についてより専門的な内容とし、それぞれ10回シリーズで実施しました。3つ目は「メセナの現場は今―ケーススタディ」です。これは、メセナ担当者の現場の状況をケーススタディとして取り上げ、相互に研鑽しようとするものです。94年度は資生堂、日産自動車、サントリーの担当者のご協力を頂きました。

アート・マネージメント講座として、4月4日に東海メセナ研究会と共催で「企業人のためのアート・マネージメント」を講師に林容子氏を迎え、名古屋で開催。7月21日には「助成要請ワークショップ」を開講しました。このワークショップでは、受講者は事前課題で与えられた企画書を持ち寄り、企業メセナの担当者を交えて助成要請の方策を研究するもので、芸術団体と企業とが同じテーブルにつく画期的なものでした。

定例会は4月4日「演劇体験―演劇を身近に感じるために」を東京の森下スタジオで開催しました。これは実際に演劇を体験することで演劇を理解しようとするもので、演出家の松本修氏に指導いただきました。11月16日「新設劇場見学とアルバン・ベルグ弦楽四重奏団コンサート」を埼玉・彩の国さいたま芸術劇場で開催しました。

4回目を迎える「文化フロンティア会議」は文化パステルとの共催で森本哲郎、永井多恵子の両氏と、福原理事長により「いま、問われる“家族文化”と“情操教育”」をテーマに鼎談、山本寛斉氏らによるシンポジウムを行いました。

昨年からはじめた「ギャラリー散歩」は5月19日の谷中近辺の画廊、9月21日銀座界隈、3月22日東京都写真美術館イトーキギャラリー等の見学を実施しました。

② 情報集配・仲介事業

助成要請情報としては、助成選考委員会で認定した活動を『メセナ』誌に掲載しました。また、公演招待サービスを行い、芸術団体と企業との接点の場を提供しました。

③ 調査研究事業

『メセナ白書1994』を9月に刊行しました。今回は前年度よりやや少ない376社からの回答を得ました。調査内容は継続的に調査するもののほか、特集として「地方自治体と企業メセナ」を取り上げ、両者の協力の実態と意識について全国都道府県、市と東京23区から回答をもとめました。その結果、32の都道府県と247の市区から回答を得ました。回答の8割以上は協力の必要性は認識しているものの、現実に企業の協力を得た自治体の実績はまだ少ないこと、協力するために解決しなければならない課題などが

明らかになりました。これらの結果を95年度の中期構想に生かしています。

④ 顕彰事業

4回目を迎えた「メセナ大賞」は今回から審査委員も新たな顔触れとし、「メセナ賞」に具体的な名称をつけ、それぞれの賞の性格付けをより明確にいたしました。「メセナ大賞94」の応募は全国132企業より173事業にのぼり前年を上回り、その中から『メセナ大賞』を受賞したサントリー株式会社をはじめ『メセナ各賞』を8社が受賞しました。今回受賞した8社のうち4社が地方の企業によって占められたことは、地方のメセナ活動が活発であり勝れたものが多いことを示すものでした。

⑤ 国際交流事業

94年度の国際交流事業は95年5月開催の「国際メセナ会議'95」の準備に集中いたしました。6月3日にギリシャで開催された国際会議に根本専務理事が出席し、「国際メセナ会議'95」開催を公式に発表。その後国際メセナ会議実行委員会を中心に会員企業による企画・運営委員会での具体化を図りました。各国には出席要請だけでなく、メセナの現状についての各国の情報提供を依頼し多くの国から協力を得ることができました。この内容は国際メセナ会議の資料として、また、『メセナ白書1995』の特集内容として活用しております。

⑥ 助成事業

94年度開催の6回の助成選考委員会では103件の芸術文化活動の認定申請があり、うち83件が認定されました。この83件の活動に助成した企業は全国各地の、延べ159社におよびました。その結果、スルー金額は19,425万円となり、94年度のスルー目標15,600万円を達成することが出来ました。

個別の事業実績については別紙Iにてご報告致します。

2. 収支報告

2.1 収入

1994年度の助成寄付金収入を除く年間収入予算13,180万円（会費収入12,340万円、事業収入690万円、雑収入150万円）に対し、12,858万円（会費収入12,093万円、事業収入664万円、雑収入他101万円）計画比97.6%の実績となりました。なお、助成寄付金収入は15,621万円の予算に対し実績は19,713万円計画比126.2%となりました。国際メセナ会議への協賛金3,310万円を加え、当期総収入は35,881万円となりました。

2.2 支出

助成寄付金を除く年間予算は事業費6,695万円、管理費6,830万円、予備費2,196万円ですが、実績は事業費6,349万円（計画比94.8%）管理費6,835万円（計画比100.1%）、予備費61万円、支出合計13,245万円となりました。助成寄付金を含めた当期のみの純収支でみますと収入35,881万円に対し支出32,670万円となり3,211万円の残となります。これに前年度繰越2,859万円を加え、6,070万円が次年度繰越となりました。

当期の貸借対照表、収支計算書、正味財産増減計算書、財産目録は別紙の通りです。

1. 啓発、普及事業

1.1 定例会

- ① 4月 4日 「演劇体験——演劇を身近に感じるために」
 講師 松本 修氏（演出家）
 於 東京・森下スタジオ 15名
- ② 11月16日 「新設劇場見学とアルバン・ベルグ弦楽四重奏団コンサート」
 講師 諸井誠氏
 於 埼玉・彩の国さいたま芸術劇場 32名

1.2 セミナー

- ① 6月17日 「メセナセミナー入門編」
 講師 伊藤裕夫氏、河島伸子氏（電通総研）
 於 電通総研会議室 21名
- ② 7月15日 「ケーススタディー—資生堂アートハウスと企業資料館」
 講師 柿崎孝夫氏（資生堂）
 於 掛川・資生堂 29名
- ③ 9月28日 「アートをまなぶ・舞踊講座10回シリーズ」
 「舞踊史概論」
 講師 松沢慶信氏（日本大学講師）
 共催 国際交流基金
 於 国際交流基金国際会議場 113名
- 10月 5日 「モダン・ダンスの誕生」 松沢慶信氏氏
 10月12日 「ポスト・モダン・ダンスとそれ以降」 松沢慶信氏
 10月26日 「20世紀前半の美学思想・芸術思潮」 前田富士男氏（慶大教授）
 11月 2日 「日本の現代舞踊—舞踏を中心として」 国吉和子氏（早大講師）
 11月 9日 「ジャンル別デモンストレーション」 石田種生氏（東京ティ・エルエ）
 11月17日 「バレエの発生から19世紀前半まで」 薄井憲二氏（舞踊史家）
 11月30日 「19世紀後半のバレエから今世紀初頭のバレエ・リュスまで」
 薄井憲二氏
- 12月 7日 「18・19世紀の美学思想・芸術思潮」 佐々木健一氏（東大教授）
 12月14日 「現在の舞踊シーンと舞踊学」 松沢慶信氏
- ④ 1月26日 「アートをまなぶ・美術史講座10回シリーズ」
 「西洋美術の流れⅠ」 講師 森田義之氏（茨城大学助教授）
 共催 国際交流基金
 於 国際交流基金国際会議場 150名
- 2月 1日 「西洋美術の流れⅡ」 若桑みどり氏（千葉大学教授）
 2月 8日 「20世紀前半の芸術運動Ⅰ」 難波英夫氏（ゆり現代美術館副館長）
 2月16日 「20世紀前半の芸術運動Ⅱ」 井上明彦氏（岡山大学助教授）
 2月23日 「戦後アメリカ美術」 広本伸幸氏（川村記念美術館担当課長）
 3月 2日 「現代美術と社会」 安斎重男氏（写真家）
 3月 9日 「日本の前衛美術とパトロンたち」 尾 真人氏（板橋区美術館主任学芸員）
 3月14日 「日本の現代美術Ⅰ」 河崎晃一氏（芦屋市美術博物館学芸課長）
 3月23日 「日本の現代美術Ⅱ」 正木基氏（目黒区美術館学芸課長）
 3月29日 「アジアの現代美術」 黒田雷児氏（福岡市美術館学芸員）
- ⑤ 12月13日 「ケーススタディー—サントリー—の文化事業」
 講師 中島邦信氏（サントリー文化事業部課長）

- 於 サントリーミュージアム〈天保山〉 29名
 ⑥12月14日 「つくり手からみた企業文化活動」
 講師 藤本由紀夫氏（音楽家）
- 於 ジーベックホール 24名
 ⑦ 1月30日 「アートとはなにか」
 講師 福のり子氏
- 1.3 アート・マネジメント講座
 於 東京芸術劇場 18名
- ① 4月 4日 「企業人のためのアート・マネジメント」
 講師 林容子氏
- 於 名古屋・朝日ホール 47名
 ② 7月21日 「助成要請ワークショップ」
 講師 高萩宏、市村作知雄、一色與志子、竹森正樹の各氏
- 於 東京芸術劇場 34名
 ③ 2月23日 「企業とよりよい関係を築くために」
 講演「助成要請のところがまえ」
 講師 高萩宏氏
 パネルディスカッション「本音で話そう、助成要請をする側とされる側」
 講師 高萩宏、入沢温、加藤種男、島田京子の各氏
 司会 岩瀬慶孝
- 於 朝日スクエア 93名
- 1.4 キャラリー散歩
- ① 5月19日 訪問先 谷中近辺の画廊、 14名
 ② 7月15日 訪問先 資生堂アートハウス 29名
 ③ 9月21日 訪問先 銀座界限 13名
 ④ 3月22日 訪問先 東京都写真美術館
- 1.5 事業共催
- ① 6月 3日 文化フロンティア会議94
 「今、問われる“家族文化”と“情操教育”」
 共催 文化パステル
 基調対談 森本哲郎氏（評論家）
 福原義春氏（当協議会理事長）
 司会 永井多恵子氏（NHK解説委員）
 パネルディスカッション デーブ・スペクター氏（プロデューサー）
 フランソワーズ・モレシヤン氏（共立女子大教授）
 山本寛斉氏（ファッションデザイナー）
 コーディネーター 大山勝美氏（文化パステル代表）
 於 草月ホール 267名
- 1.6 通常総会特別講演
- ① 6月13日 「演劇界の現状と外国演劇現場との交流」
 講師 蛭川幸雄氏（演出家）
 於 如水会館
- ② 3月 9日 「わが社の文化活動とサントリーホール」
 講師 稲見 宗孝氏（サントリー株式会社常務取締役）
 於 経団連会館

2. 情報集配・仲介事業

2.1 『メセナ』誌の発行

- | | | | | |
|----------|-----|----|--------------|----------|
| ① 4月20日 | 16号 | 特集 | アート・マネージメント | 教育と現場 |
| ② 7月20日 | 17号 | 特集 | マルチメディア時代の芸術 | |
| ③ 10月20日 | 18号 | 特集 | アートを社会に解き放つ | |
| ④ 1月20日 | 19号 | 特集 | 湧き立つアジアは、いま | |
| | 部数 | | 各5000部、 | A 4版、32頁 |

2.2 『ニューズレターM's』の発行

隔月発行、会員企業メセナ担当者に配布

3. 調査研究事業

3.1 『メセナ白書1994』の発行

9月16日 発行 (発行元: ダイヤモンド社) 部数 6000部 B 5版

4. 顕彰事業

4.1 メセナ大賞'94

- | | | | |
|--------|----------|------------|------|
| 4月1日 | 募集要綱発表 | | |
| 7月3日 | 応募締切 | 132社、178事業 | |
| 9月21日 | 第1次審査委員会 | | |
| 10月17日 | 第2次審査委員会 | | |
| 11月21日 | 贈呈式 | 朝日ホール | 420名 |

5. 国際交流事業

5.1 派遣

- ① セレック国際会議 (ギリシャ)
6月3日 根本専務理事出席
- ② 韓国企業メセナ協議会設立総会、記念シンポジウム
10月19～22日 根本専務理事、小池事務局員
- ③ 香港・シンガポール調査
11月13～19日 熊倉、小池事務局員

6. 助成事業

6.1 助成選考委員会

- ① 5月23日 第1回開催
- ② 7月26日 第2回開催
- ③ 9月16日 第3回開催
- ④ 11月24日 第4回開催
- ⑤ 1月20日 第5回開催
- ⑥ 3月31日 第6回開催

以上

II 処務の概要

1. 役員に関する事項

平成6年度末現在役員

役員	氏名	就任年月日	担当職務	手 当	略 歴
理事	西尾 信一	1990.2.14	会 長	62万円	第一生命会長
	佐治 敬三		副会長		サントリー会長
	塚本 幸一		〃		ワコール会長
	堤 清二		〃		セゾンコーポレーション会長
	樋口 廣太郎	1994.4.1	〃		アサヒビール会長
	福原 義春	1990.2.14	理事長		資生堂社長
	石川 六郎	1990.2.14	専務理事		鹿島建設会長
	稲森 和夫				京セラ会長
	大賀 典雄				ソニー会長
	中江 利忠				朝日新聞社社長
	平岩 外四				東京電力相談役
	松沢 卓二				富士銀行相談役
	根本 長兵衛				共立女子大教授
	椎名 武雄	1990.7.11			日本アイ・ピー・エム会長
紫田 俊治		朝日放送専務			
金子 尚志		日本電気社長			
竹中 統一		竹中工務店社長			
豊田 章一郎		トヨタ自動車会長			
三沢 千代治		ミサワホーム社長			
後藤 康男	1991.4.1	安田火災海上会長			
関沢 義功		富士通社長			
山口 開生		日本交通公社社長			
小林 陽太郎	1994.4.1	日本電信電話会長			
北島 義俊		富士ゼロックス会長			
監事	宮崎 邦次	1993.4.1	大日本印刷社長	第一勧銀会長	
	今村 治輔	1994.4.1		清水建設社長	

2. 職員に関する事項

職 務	氏 名	就任年月日	担当事務	手当(月額)	
事務局長	岩瀬 慶孝	1990.4.9	総務・事業	1.1万円	
〃 次長	高井 光子	1990.2.14	会計・事業	4.9万円	
課長	林 はる芽	1991.4.1	事業	3.2	
	野呂 健男	1990.2.14	事業	2.4	
	久保田 大介	1992.4.1	事業	2.4	
	小池 佐知子	〃	事業	2.1	
	熊倉 純子	1993.4.1	事業	2.5	
	部長	長南 巖	1994.4.1	事業	なし
		岩井 千鶴子	1994.4.1	事業	なし

3. 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開会年月日	議 事 事 項	会議の結果
1994. 6. 13	1. 新会員承認の件 2. 1993年度事業並びに収支決算報告の件	可 決 可 決
1994. 12. 9	1. 新会員承認の件 2. 理事選任の件 3. 国際メセナ会議開催の件	可 決 可 決 可 決
1995. 3. 9	1. 新会員承認の件 2. 阪神大震災メセナ委員会設置と理事長一任の件 3. 1995年度事業計画並びに収支予算案の件	可 決 可 決 可 決

(2) 総会

開会年月日	議 事 事 項	会議の結果
1994. 6. 13	1. 1993年度事業並びに収支決算報告の件	可 決
1995. 3. 9	1. 理事選任の件 2. 1995年度事業計画並びに収支予算案の件	可 決 可 決

4. 許可、認可及び承認に関する事項

該当なし

5. 契約に関する事項

該当なし

6. 寄付金に関する事項

寄付の目的	寄付者	領収金額	備 考
企業メセナ協議会 認定活動への助成	(株)アーク・スリー ほか131社	19705 万円	国際モザイク展 ほか83件を助成

7. 主務官庁指示に関する事項

該当なし